

## ライフプランは金融教育の柱

思えば日本 FP 学会は金融リテラシーの普及に格闘してきた歴史であったと思う。日本版ビッグバンの声が叫ばれていた 2000 年 3 月の設立趣意書には「…ライフプランをベースにした生活科学という学問領域を確立していくことが社会的なニーズになってくることが予想される。…」と今日を予言していた。2016 年 6 月の改正公職選挙法の施行により 18 歳成人化、それまでは高等学校の総合的な学習の時間に短篇的に行われていた金融教育が 2022 年には学習指導要領に生まれ「公共」「家庭」の科目の中で教えられるにいたった。そして、2023 年 6 月岸田文雄政権は「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」で、資産運用立国を目指すと宣言している。2024 年から新しい NISA では非課税保有期間の無期限化、非課税保有限度額は、全体で 1,800 万円。（成長投資枠 1,200 万円。また、枠の再利用が可能。）と抜本的拡充・恒久化が図られる。金融庁は成長投資枠を利用した回転売買への勧誘行為をする金融機関を徹底監視する方針を表明している。医療福祉、年金財政の危機が叫ばれる中で金融リテラシーを基軸とした自己責任に基づく自助の態勢が整いつつある。

思えば 2000 年に銀行向けの確定拠出年金のテキストを書き、金融グループとして確定拠出年金の運営管理機関の設立メンバーとして投資教育のコンテンツ作りをおこない、自社に戻っては地方銀行との提携を進めていた。この頃から金融リテラシーの普及に携わっていたと思う。2007 年から大学教員に転身し今日に至るまで大学生や社会人大学院生にファイナンスを教えている。2020 年地元香川大学に転身してから新入生対象の全学共通教育カリキュラムのライフデザイン科目群で金融を教えている。まさに社会経験のない大学 1 年生に、金融という「見えない」「経験ない」「実感ない」科目を教えるのに奮闘した 3 年間であった。

その中で確信したのは金融教育の中心はライフプランニングである。大学 4 年間は社会人になるための予備期間であると考える学生は多い。3 年生となるとインターンシップ、就職活動へと駆り立てられる。当初の授業は金融商品の解説から生活の中でどのように利用されているか、という講義内容であった。これを反転してライフプランの解説の中で金融商品を取り上げるように工夫した。すると学生の興味は倍増したのだ。以下はそのシラバス(1 単位全 8 回)である。

1 回	シラバスに基づいて授業の全体像を説明する。また、ライフプランとは何か。統計データをどう集めるか。家族のセットアップと家計統計について説明する。
2 回	収入 1 日本人の平均年収、正規と非正規、男女賃金差、最低賃金を知る
3 回	収入 2 上場企業の年収、君のいきたい会社の年収は？ その差の原因は何か？
4 回	三大支出 1 生活費、いくら日本人は生活費にお金をかけているか？ 消費者ローン、カード利用の問題点と利用方法。複利を味方につけるか敵に回すか？

※本稿の著作権は日本 FP 学会・執筆者に帰属します。

5回	三大支出2 住宅費はいくらかかるか? 賃貸と持ち家論争。住宅ローンにいくらかかるか? 生命保険と損害保険の違いとそれぞれの特性を学んで夢を実現しよう。
6回	三大支出3 老後資金 2000万円問題。年金はいくらもらえるのか。
7回	収支予測 キャッシュフロー分析で課題設定しよう。
8回	資産運用 自己責任の時代を生き抜く。退職金、確定拠出年金は実は投資信託での運用です。投資信託のベースは何か。複利を味方にしよう。非課税商品を知ろう。分散投資の意味を知る。

たとえば、住宅ローンの説明の中で複利計算を教える。地元の銀行の住宅ローン・シミュレーションを活用すれば身近なものとなる。日本は低金利である。これが反転してインフレとなったらどうなるだろうか。実際に米国の住宅ローン 30 年は 6.96%(2023 年 8 月 10 日確認: [Mortgage Rates - Freddie Mac](#))にも及ぶ。同じ市民がマイホームの夢を住宅ローンに託すのに日本との金利差は5%以上になる。金利差は返済金額に直接響く。金利が国民生活にどのように影響するか実感できる。さらにこの日米の金利差は為替価格に影響する。為替の決定理論として購買力平価があるが、現在の為替は金利差の影響が大きい。アセット・アプローチである。このように金融は生活に身近なものであることをライフプランニングの作成を通して学生たちは実感することになる。

ライフプランは単純である。収入と支出、そこから生み出される貯蓄をどう活用するか。この3つの要素で成り立っているのも学生にも理解しやすい。収入や貯蓄で賄えなければ支出を減らすか延期するか、あるいは両親からの援助という方法もあるだろう。このように自分の人生を考えるきっかけとなる。これを俯瞰するとスキーに例えることができる。スキー場の杭の中ではどれだけ転倒しようと安全だが、杭を抜け出してしまうと危険度は増す。つまり、収入や貯蓄はいわば人生の杭である。この中で人生をどう楽しむか、長い人生の多期間効用の最大化が大切である。ライフプランは安全地帯を示す人生の杭といえまいか。

(香川大学 教授 三好秀和)